

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で住み続けたい。そんな願いが実現できるように、そしてその人らしく元気に安心して暮らしていただけるように職員全員で実践しています。いつでも振り返られるように、見やすいところに掲げて有ります。	法人の理念「人として、幸せに、安心して、生きる日々を大切に」、法人内のグループホーム全体の理念「その人らしく、生き生きと地域の一員として家庭的な雰囲気を大切に、あせらず、ゆっくり一緒に暮らす」、そして当ホーム独自に「住み慣れた地域で生き生き自分らしく」を掲げ、月1回の職員会議で理念の共有を図り日々のケアに活かしている。また、理念にそぐわない言動や対応がみられたときには管理者あるいはリーダーが直接助言を行いケアの向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	宅老所と併設とあり、入居されているお年よりのお知り合いの方もいらつやいます。その為面会や、こちらから訪ねて行く事もあります。また、ご近所の方からお野菜等いただき、散歩をしている時など良く声をかけていただきます。	区費を納めるなど地域の一員となっており、地区のゴミ拾い等にも参加している。隣接の宅老所に小学生が来訪し運動会での組み体操・歌・ゲームなどを披露したり、「童謡の会」などの訪問がある時にはホームの利用者も参加し一緒に楽しんでいる。また、ホーム便りは毎回地域全体に回覧していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さん、福祉推進委員さんが、時々来られ職員やお年よりとお話されます。地域柄大変忙しいのにありがたく思っています。また、不定期ではありますが「グループホーム便り」を発行、中に「認知症一ロメモ」を載せ、全戸回覧し認知症を少しでも理解していただくようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	菅平地区の役員さんに加え、地域柄須坂市峰野原地区の役員さんにも参加していただいています。役員さんに来ていただく事はとても有意義な事だと思っています。具体的な課題について話し合い、ご理解をいただいています。	利用者家族代表、地元の自治会長・民生委員・長寿会長・福祉推進委員、消防分団長、支所福祉課職員、隣の地区の自治会長・民生委員、法人のグループホーム統括リーダー、宅老所のスタッフ、ホームのスタッフなどにより、隣接の宅老所と合同で開催している。事業報告などを行い、ホームなどへの意見や助言をいただいている。地域柄、冬のスキーシーズンや夏のスポーツの大会・合宿などにより2ヶ月に1回会議を開くことは大変難しいため、隣接の宅老所での「生き生きサロン」、「ケアケア交流」などの時に開催を計画し、今後委員の方が参加しやすいように時季等も含め検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は、地域柄年6回の開催が未だ出来ていない状況ですが、連絡は蜜にとつてはいます。空気が出来た時はまず相談させていたたくようにしています。また、介護相談員さんの2ヶ月に1回の訪問受け入れも行ってあります。	空気が出来た時には民生員や地域のケアマネジャー、市支所担当者に相談している。介護認定の更新の際には家族同席の下、ホームから調査員へ情報提供するなど市との連携や協力体制が出来上がっている。2年任期の介護相談員2名が2ヶ月に1回来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間就寝前以外は施錠は行ってはしません。全ての職員が危険箇所を把握し、目配り気配りで安全を確保しつつ自由に生活していただけるような支援を行っています。	夜間以外は玄関の施錠はしておらず、自由に過ごされている。身体拘束をしないことについては運営規程に掲げてあり、毎月のカンファレンスでも確認している。法人全体で月に1回開かれる研修会でも「身体拘束排除」について毎年取り上げている。	

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を法人全体で行っていて職員全員が虐待について理解をしています。自分がいやだと思った事は「やらない、言わない」をもっと笑顔が耐えない生活。人生の先輩として接していただくように指導しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで、菅平GHでは成年後見制度を利用された方はいません。しかし他のGHでは今年度に入り少しずつ増えてきました。グループホームの勉強会に取り入れ勉強を行いたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用対象者となられた方には、管理者が事前訪問したり、体験入居していただいたりします。契約の内容について時間をとって説明しています。利用料金や起こり得るリスク、重度化、看取りについての対応方針については詳しく説明し同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、来所時電話などでご意見やご希望を言っていただけるような雰囲気作りにも努めています。また、介護相談員の訪問もあり、入居者が気軽に外部の方に相談できるように配慮しています。	要望や意見は出来る限り本人から聞くようにしている。また、意思疎通が困難な場合には表情で察している。家族会はないが毎年5月には味噌の仕込み、6月にはホームの開所記念日、11月には地域交流会として食事会を開き、家族にも参加をいただき意見交換をしている。要介護5の利用者に付き添い、ひ孫様の結婚式への参加のお手伝いをした際には家族からも感謝された。利用者の希望に沿えるよう出来る限り努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案を聞くように心掛けています。「気づき、困った事等何でもノート」を用意し何でも書いていただくようにしています。入居者との関わりの中から生まれる気づきやアイデアを積極的に取り入れています。	法人全体会議とホームでの会議が月1回開かれている。職員ごとに年度目標を作り、年度末には統括リーダーとの面接があり、結果がどうであったか話し合いが行われている。法人の中に各種委員会があり、職員は必ずいずれかの委員会に所属し業務改善に向けて意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個人面接を行い個々の努力や、実績、悩み等把握するように努めています。健康診断の実施等職員の心身の健康を保つための対応もしています。職員の資格取得についても勉強会を開催し積極的にバックアップしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の会議が毎月行われ、施設内研修でもあります。また、毎月グループホーム全体の勉強会を開催したり、菅平GHでは、毎月カンファレンスと共に認知症の勉強会を行っています。職員が学ぶ機会を多く作るように努めています。資格取得者の支援も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームさんとの連絡会があり、そこで、相互に訪問して共にサービスの質を向上していく活動を行っています。また、親睦会も行われ、同業者との連携、交流は盛んに行われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居対象者となられた方には、必ず管理者がご本人とご家族に何回かお会いして生活状況や心身の状況、これからの希望等お聞きし、安心が得られるような配慮を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦勞や、今までのサービスの利用状況など、これまでの経過についてゆっくりお話を聴く様にしています。相談に来られたご家族様等の立場に立ってしっかりと話を聴き、気持ちを受け止めながら、信頼関係を築くよう努めていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族様の思いや状況を確認し、認知度の状態も考慮し、まずご本人様のご希望を優先し、体験できる状況であれば体験をし、入居がまだ相応しない状態であれば、他の必要なサービスにつなげその方の生活を支える支援を行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側の関係でわなく一緒に生活し喜怒哀楽を共にする家族のような関係でありたいと思っています。出来る事に着目し、得意な事を楽しみながらやっていただくようにしています。お互いをいたわり合いながら仲良く生活されています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ありがたいことに、ご家族の面会は、どなたも頻回に来ていただいております。また、毎週日曜日に面会に来られ、毎月外泊される方がいます。ご家族にとっても張り合いとなり、お互いがストレスの無い生活を送っていただいていると思います		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している理容師の方が訪問理容して下さったり、地域の馴染みの店に買い物に出掛けたり、併設の宅老所に出かけたりと、出来るだけ関わりがもてる様に努力しています。	知り合いが畑にいる時に畑に出向き話をしたり、隣接の宅老所に友達が利用者として来た時には面会に出向いている。出来るだけ馴染みの方と会えるように支援している。毎月4泊5日、盆・正月には1週間ほど自宅に泊まり家族とゆっくり過ごされる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	要介護度が高い方、低い方と様々です。しかし、お互いがいたわり助け合い信頼し合いあって生活していると思います。ありがたい事に、お年より同士が声がけあい助け合う姿は、職員が教えていただく事です。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されると、疎遠になってしまいがちですが。お亡くなりになられた方のご葬儀や新盆にはお参りさせていただくようにします。また、病院入院長期により退去された方に色紙を作ったり、面会に行ったりと、良い関係が継続出来る様努力していきたいと考えています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉が話づらい方もいますので日々の関わりの中でゆっくり話を聴くようにし、把握に努めています。言葉ばかりではなく表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認する様にしています。ご家族からも情報を得る様にしています。	言語に障害を持たれている方もいるが大分意思表示がはっきりしてきた。食事の希望メニューを聞き、4日に1回スーパーに買出しに出掛けている。同行していただく利用者もあり、スーパーの店員とも顔馴染みとなり声をかけていただいている。男性利用者のお一人はいつも自分で仕事を見つけて色々と職員の手伝いをしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決まった段階で、事前訪問をしたり担当ケアマネやご家族色々な情報をいただいています。その方にとってこれからの暮らしは、今までの生活の延長と捉えています。出来るだけ入居後も情報収集に心がけています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	要介護度の高い方、低い方と差が有りますが、出来なくても皆さんと同じ事をしたい、やりたいという気持ちを大切にしています。また、得意な事、楽しんでいる事に注目し関わるようにしています。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見をお聞きし、反映させる様にしています。ご本人の意向に添った介護計画にしていきたいと思っています。	日頃からご家族の面会があり、来訪時には声がけをし利用者や家族から意見や要望をお聞きしている。3ヶ月に1回介護計画の見直しも行っている。また、状態の変化が生じた時には随時見直しをしている。職員は担当制ではないが利用者が6人でもあり毎月のカンファレンスで利用者全員の介護計画を把握している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はお年寄りの状態の変化や日々のケアでの気づき、出来事、食事や水分量の記録を行なう事で、スタッフ間の情報の共有化を図っています。カンファレンスと共に個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施しています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーション、菅平高原クリニックとの連携が取れているので、終末期の対応が可能でありご本人やご家族の意向に添える様に努力しています。又、病院入院時の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力しています。	

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームより早く開所していた「宅老所」との併設となっていますので、地域ボランティアさんの訪問はグループホーム単独でなく「宅老所」さんへの訪問になりそこへ参加する形になります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医の変更を勧める事はありません。ご本人、ご家族のご希望に応じて対応しています。病院受診はご家族に協力頂いています。往診に来て頂くケースもあり医療機関との関係を密にしています。また、訪問歯科の往診のあります。	利用契約時にはかかりつけ医について希望をお聞きしている。地域には1つしか医療機関がなく、そこから3週間に1回協力医の往診がある。開所当時は協力歯科はなかったが、21年度より協力歯科もお願い出来、月に1回往診に来ていただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の宅老所Nsや菅平高原クリニックのNsとの連絡会議等で、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を頂いています。日常的に連携がとれています。医療連携による訪問看護Nsや協力医療機関との連携もとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはなるべく多く見舞う様にしています。病院側、ご家族、との情報交換や意見交換を行いながら、早期退院に結び付けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う介護についての同意書で指針の説明をし、同意をいただいています。ご家族、医師、看護師を交え話し合いを行いご本人やご家族のご希望やお気持ちに沿った方針で支援を行っています。随時状況の変化をお伝えし、相談、意志確認しながら取り組んでいます。	昨年3月にお一人の方の看取りを行なった。ご家族の希望をお聞きし、看取りのケアについて説明し同意を得、職員教育をしながら主治医・看護師と連携をとり家族に見守られながら看取ることが出来た。24時間体制で訪問看護も対応していただけ、安心できる。今年の5月にも機能低下された方がいたが訪問看護と連携をとりながらケアに取り組んだ結果、回復することができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署の協力を得て、全体会議で救急救命法の講習を受講し対応出来る様にしています。緊急連絡網や対応マニュアルを整備し周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の度に災害などの話しが出来ます。夜間は職員が一人の体制になり非常時の連携には気を付けています。地域の方々にも気にかけていただいています。年1回の訓練には地域、消防署の方にも参加していただき協力体制を整えています。	年2回併設の宅老所と合同で防災訓練を行っている。内1回は消防署の協力を得ている。昨年は夜間想定で行い、今年は地震想定で地元の消防団の方にも参加していただき実施した。通報訓練も独自に年2回行っている。自動火災報知器やスプリンクラーなども設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お年よりは、人生の先輩と考え、どんなに認知が進んでも、大切な人と考え丁寧な言葉かけに注意し、スタッフ間でもお互いに気になった事は注意しあえるようにしています。	毎月開かれる法人の全体会議では職員が作った15項目の「アザレアン宣言」を復唱し振り返りをしている。法人全体の年間研修計画でも「プライバシー保護」について組み込まれており、ホームでの勉強会も行っている。好ましくない言動について職員間で気づいた時には、その都度お互いに注意し日々のケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お年寄りの意志や希望を大切にしています。意志を確認し、希望されない事は無理強りする事のない様になっています。言葉では十分に意志表示出来ない場合でも、表情や反応を注意深くキャッチしながら自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りが主体と考えています。お年寄りの希望を最優先する様にしています。一人一人の体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重し、個別的な関わりを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿い、馴染みの床屋や行けるよう支援しています。個々の生活習慣や好みに合わせる様にしています。身だしなみは大切にしています。いつもキッチンとお洗濯がされた衣服で、身だしなみをきちんとしている事がご家族にとっても嬉しい事と考えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お年寄りと、一緒に買い物に出掛けています。皆様のお好きな物を選んだりしています。片付け等を共に行ったりしています。職員とお年寄りが同じテーブルを囲んで楽しく食事出来る様雰囲気作りも大切にしています。	一部介助が必要な方がいる。日々の献立は計画されておらず、買い物してきてその都度冷蔵庫にあるものや近所からの野菜の頂き物などによりメニューを決めている。また、誕生日にはケーキやお寿司を選んでいただきお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自由に好きな物を楽しめる様配慮しています。体調を崩されたり、レベル低下の為食事が充分摂れない方には、食事チェック表を活用し情報や気づき、アイデアを出し合い、嗜好品や食べやすい様に工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの習慣や意向を踏まえ、毎食後個別に働きかけを行っています。自分で出来る方は見守りをし、出来ない方には職員が口腔ケアを行っています。また、訪問歯科の指導も行っていきます。夜間は義歯は義歯洗浄薬につけています。		

菅平グループホーム

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を参考にして時間を見計ったり、様子から察知し、トイレ誘導、オムツ交換等の支援を行っています。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせ検討しています。極力ご本人が傷つかない様配慮しています。	排泄チェックリストも作成され、自立している方もおり、夜間のみオムツ、常時オムツ、リハビリパンツなど、一人ひとりにあった支援方法によりトイレ誘導などを行っている。利用者の様子から失敗等に気がついた時には他の利用者につづかれないう、また本人の気分を損ねないようさりげなくトイレ誘導し、着替えなどの支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方に限らず、十分な水分補給と野菜中心の食事の提供をしています。また、糸寒天等使用したり、散歩に出掛けたりと日常生活の中で自然に身体を動かせる様に工夫しています、出来る限り自然排便に心がけています。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される日や時間に沿って入浴していただいています。日中、夕食前、等それぞれです。入浴を好まない方に対しては声かけのタイミングや入りたくなるような誘い方の工夫をしています。入浴剤も好みに応じて使用しています。	自立で入浴できる方が4名で、2名の方が全介助である。週2回の入浴としている。お誘いしてもなかなか入浴まで時間のかかる方もいるが、何とか工夫して入っていただいている。夏でも涼しく過ごせる土地柄であり、夏場でもシャワー浴より湯船にお入りいただくことが多い。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に活動をしていただいています。眠れない方には、就寝時間にこだわらず、眠くなるまで居間で温かい飲み物と一緒に飲みながら眠くなるまでお話などをして過ごしています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明書を個人台帳に綴じ、内容を把握出来る様にしてあります。薬袋に飲み忘れの無いよう日付を入れています。状態の変化が見られた時は詳細な記録をとるようにし、訪問看護Nsや協力医療機関との連携を図っています	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、楽しんで出来る事など負担にならないよう気を配りながらやっていただいています。食事の準備、食後の食器洗い等ご自分の役割としてやっておられる方も居ます。やっていただいた時には感謝の言葉を伝えています。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ等出来るだけ外出する機会を多く作るようにしています。春など近くを散歩するとワラビや落等山菜が採れます。また、送迎者を使いお花見やぶどう狩り等遠出もします。歩行困難な方でも、戸外に出る事を積極的に支援しています。	前年度の記録を参考に外出計画を立てている。ホームの敷地も広く散歩したり、スキー場がある地区でもあるため山菜も豊富で、わらび・うど・ふきなど車椅子でも採ることが出来る場所があり、みんなで出掛けている。また、秋にはお弁当を持ってブドウ狩りにも出掛けている。ホーム便りの「くろちゃん通信」の写真でも四季折々外出される楽しいひと時を過ごされていることが窺える。

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持てる方には持っていたいただいています。必要な時はご自分で払っていただいています。お年寄りがお金を持つことを阻害する事なく、店で希望される物を買ってご自分で支払いをしていただく事を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話で自室でゆっくり話ができます。贈り物が届いた時等、職員から声をかけ電話しやすい雰囲気作りをしています。ご家族や知人からの電話や手紙には、感謝しています。ご希望に応じて自由に電話が出来る様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や、共有フロアーには常にお花を飾るようにしています。また、金魚を飼いお年寄り、職員の癒し的な存在になっています。また、フロアー角に写真等飾りご家族様やお客様にお年よりの素敵な笑顔を見ていただくようにしています。季節ごとの行事を取り入れてもいます。	利用者全員が集まる居間と食堂は建物の中心にあり、食事をするテーブルの上は吹き抜けで天井が高く、高原にびったりのペンションを思わせ、明るく静かである。一角にはソファも用意され、ゆっくりテレビ鑑賞も出来るようになっている。ホーム便りの「くろちゃん通信」の由来にも一役買った黒い出目金はいつからか目の周り以外は赤くなってしまったが、利用者に見守られ元気に泳いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に生活をしていただいています、一人で過ごしたい時はご自分の部屋で過ごされています。また、テレビ前のソファに腰掛け気の合うもの同士、テレビを見たりお話をしたりして過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具、大切にしていた物等入居時にお願しています。ご自分なりの整理の仕方、こだわりのある方もいらしゃいますので、相談しながら、ご本人にとって居心地の良いお部屋になるように工夫しています。	居室の入り口にはホームで用意されたものではあるが一人ひとり違う暖簾が下げられ、室内には寒冷地帯でもあることから湯沸かし器付きの洗面台が備え付けられている。床暖房なので安全で暖かく過ごせるようになっている。居室の壁には思い思いに写真などが飾られ居心地のよい居室作りがされている。ベットの方と床に布団を敷いて休まれる方など自由に過ごせるように配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人にとって「何が分かりづらいのか」「どうしたらご自分の力でやっていただけるか」を職員で話し合い対応しています。心身機能の状態の変化に考慮し生活環境の改善にとりくんでいます。		